

地域課題の解決に向けた取組

低コストで効率的な造林作業の普及

根釧西部森林管理署

はじめに

根釧西部森林管理署で管理している森林面積は、約18万2千ヘクタール（香川県と同じ面積）あり、そのうち苗木を植栽して育てた人工林の面積は、約5万7千ヘクタールあります。また、釧路地域で伐採や植栽等を実施する森林は、比較的平坦な地形を呈しています。

その人工林も収穫期を迎えてきており、主伐後、再び苗木を植栽する仕事も増加してきているところです。

苗木の植栽後は苗木の生長を促進するため4～6年間下刈り作業を行います。近年、その作業を担う造林の労働力は減少しており、拡大する造林事業の担い手不足が顕著になってきています。

課題

人力作業が大半を占める造林作業では、酷暑の中での作業等の労力を軽減する「軽労化」の推進が急務です。

伐採作業では、高性能林業機械の導入により、人力作業が大幅に少なくなってきましたが、造林作業の「軽労化」は、まだ緒についたところ

にあるというのが現状です。

今年度の取組

当署のフィールドで開催した「下刈り作業の機械化テスト」や、「先進造林機械による再造林技術検討会」（いずれも北海道森林管理局と振興局（北海道）が共催）では、造林作業の機械化・軽労化に向けて、先進的な取組を紹介しました。



乗車式草刈り機のテスト（弟子屈町）

（根釧地域と連携）

根釧西部森林管理署も、振興局や根釧東部森林管理署と連携を図る中、今年度「合同現地検討会」を二度開催しました。

第一回目は、6月に「効率的な地拵」をテーマとして実施した現地検討会では、昨年

たササの根茎除去による地拵の事業地を3箇所みていただきました。



第1回合同現地検討会意見交換会（釧路市）

現場では、バックホウに取り付けられたクラップルレーキ等様々なアタッチメントによる地拵えを紹介しました。

この地拵え処理により、植栽後のササ類の伸長を抑制し、下刈り回数を2年程減らすことを目的としています。

第二回目の検討会では、「一貫作業システム」の検討会を開催しました。

一貫作業システムとは、主伐から造林の作業を一体的に行う仕組みです。これにより、作業効率を向上させるとともに、大型機械地拵え等の活用により、従来の方法に比べ、「コストおよび労働投入量の縮減に繋がります。

検討会では、「ササの根茎を剥いだ地拵えによって、植栽後何年間の下刈りが不要になるのか」といった質問があるなど、今後の経過について関心が高く、さらなる現地

検討会の開催を求められたところ。です。

釧路地域が情報発信基地に

管内では、主伐期を迎えた人工林が多くなり、その後苗木を植栽する面積も増えてきています。また、それに伴って下刈りの必要な箇所は年々拡大していくこととなります。

一方、造林事業の現場においては、担い手不足が深刻な状況にあり、いち早い作業の軽労化に繋がる機械の開発・導入が待たれるところです。

釧路地域は、施業地が平坦なところが多く、大型機械等による作業が比較的容易であることから、「造林作業の機械化の情報発信基地」となるような取組を振興局と連携を図り進める考えです。



第1回合同現地検討会（標茶町）